

文 献

- 1) Smithsonian Institution, 1966: *Smithsonian Meteorological Tables*, 6th revised edition, 3rd reprint, prepared by R.J. List, 527 pp.
- 2) Wurtele, M.G., and B. Finke, 1961: A note on the computation of the saturation-and pseudo-adiabatic processes. *J. Meteor.*, **18**, 809-812.

(気象研究所 丸山健人)

問：台風の発生が遅いと大型台風が襲来するというのは事実でしょうか (会員)

答：今年(1973)の台風1号は7月2日に発生し、今までの遅い記録であった6月9日(1952)よりさらに23日も遅くなりました。このようなことは過去30年に一度も経験しなかったことで、今年の台風発生が例年とかなり違うところから大型台風がくるのではないかと噂された時期もありました。しかし、結論からさきに申しますと1号の発生が遅れたからといって大型台風が襲来するとは限りません。むしろ、関係がないと言った方が正しいでしょう。

台風の観測網が比較的整備され、飛行機観測も利用できるようになった1951年以降の資料を用いて1号がどの月に何回発生したか調べると1月：9回、2月：5回、3月：2回、4月：4回、5月：1回、6月：1回、7月：1回となっています。全体の約4割は1月に1号が発生していますからこれが平年の状態です。真冬に台

風が発生してもとくに出足が早いということはありません。これに対し5月以降に1号が発生したのは全体の約1割に当たる3例しかありませんから珍しい部類にはいるでしょう。

これらの年に中心気圧が900 mb以下になった猛烈な台風は1952年はなし、1964年は3コ、1973年はいまのところ発生していません。また、逆に猛烈な台風が3コ発生した年の第1号発生は1月3日('57)、2月3日('62)、5月2日('64)となっています。とくに100人以上の死者をもたらした台風をとりますと、遅い発生年では'52年の1コだけです。逆に有名な台風とその年の1号発生日(カッコ内)をみるとルース('51年2月19日)、洞爺丸('54年3月1日)、狩野川('58年1月7日)、伊勢湾('59年2月27日)、第2室戸('61年1月14日)とむしろ1~2月に集中しています。ですから1号の発生日が遅れたからといって、大型台風がくるとは限りません。

猛烈な台風になるのは20時間以内に50 mb以上も中心気圧が下がります。(天気15巻8号)。数値実験(大山, 1969)によると海面温度を27.5°Cにして実験を進めておいて台風が発達したところで海面温度を25.6°Cに下げると中心示度は浅まるが、27.5°Cに上げると中心示度が深まります。猛烈な台風の形成には海面温度とホットタワーの役割が重視されています(本誌14巻3号柳井解説参照)が、これからの大きな研究問題でしょう。

(長期予報管理官室 朝倉 正)

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
第10回自然災害科学総合シンポジウム	昭和48年10月13日~14日		九州大学工学部(福岡市)
高層気象月例会	" 10月25日	気象学会	気象庁第1会議室
秋季大会	" 10月29日~31日	気象学会	仙台市
第20回風に関するシンポジウム	" 11月28日	気象学会他共催	気象庁講堂
北海道支部研究発表会	" 11月29日	北海道支部	札幌管区気象台
第2回「瀬戸内海の海陸風に関するシンポジウム」	" 11月末~12月上旬	関西支部	広島市
レーダー気象月例会	" 12月13日	気象学会	気象庁